

ダブルエース最後の夏

東海大甲府は1年生から甲子園を経験しているダブルエースが集大成を迎える。菊地大輝は、14キロの重い速球に加え、緩い変化球を習得し投球の幅が広がった。松葉行人は、キレのある速球に7つの変化球を織り交ぜバットの芯を外す制球力で凡打の山を築く。

日本航空の片岡優大は、全身のバネをつかつた大きなフォームから投げ込むキレのある速球を武器に打ち向かう。今春から急成長の西角優杏は、長身から投げ下ろす力のある速球が魅力。

山梨学院は2年生トリオに注目。栗尾勇摩は、右の本格派で140

投手編**ダブルエース最後の夏**

6季連続Vの東海大甲府は投も打も磐石一強体制に歯止めをかけるのはどこだ?

7月9日~24日(山口YBS球場ほか)

山梨県

都留の佐藤勝成は、153センチと小柄だが120キロ台の速球と80キロ台の変化球を操り丁寧に粘り強くまさに小さな大エース。日川は、左腕の又木鉄平、杉田健悟、右下手の保土澤凌など多種多彩な豊富な投手陣で臨む。日大明誠の武田航太は、スライダーを中心に変化球を低めに集め内野ゴロで打ち取る。富士学苑の左腕・栗本優誠は、両コーナーいっぽいに

キロ超の速球とキレ味鋭いスライダーで三振を奪える好投手。左腕の吉松墨は、多彩な変化球を中心で打たせて取る投球がウリだ。2人ともに走者を出してから単調になり痛打を浴びる傾向があり夏までは克服したい課題だ。

今春ベスト4と原動力となつた

投げ分けるコントロールが素晴らしい。帝京三の水上由伸は、140キロ超の伸びのある速球に威力十分であり、甲府城西の清水幹太は、打者のヒザ元、胸元を強気に攻める好左腕だ。

さらに進化を続ける怪物**野手編**

例年、強力打線が看板の東海大甲府が今年は一味異なる。チームの一員駒天・萩原杏磨を筆頭に原田隆聖・福武修など俊足を並べ中軸には注目の強打者・松岡隼祐、川上和輝など、機動力あり強打ありと多彩な攻撃を仕掛けられるチームとなつた。2年生の捕手・亀田啓太は、全国屈指の強肩と送球

注目投手

片岡優大(日本航空)

山梨県の主な注目選手

守備	名前	所属	学年	身長	体重	投打	評価	コメント
投手	菊地 大輝	東海大甲府	3	180	83	右右	B	最速146キロの重い速球と強心臓で5月の練習試合では完全試合達成
投手	松葉 行人	東海大甲府	3	177	72	右左	C+	キレ味鋭い7つの変化球を緩急自由自在に操り、打者に的を絞らせない
投手	片岡 優大	日本航空	3	174	70	右右	C+	全身を使った大きなフォームからキレのある最速145キロ速球が魅力
投手	栗尾 勇摩	山梨学院	2	183	78	右右	C+	2年生で発展途上だがストレート、スライダーのキレは抜群の好投手
二塁手	知見寺代司	山梨学院	3	175	73	右左	C+	無駄のない力強いスイングで、どのような球にも対応できる中距離砲
三塁手	清水 寛太	甲府工	3	176	72	右左	C	投手兼内野手。広角に長短打ち分ける柔らかい打撃に将来性を感じる
三塁手	松岡 隼祐	東海大甲府	3	181	85	右右	C+	勝負強い打撃で得点圏打率は4割を越え、右方向にも長打が打てる大砲
遊撃手	福武 修	東海大甲府	3	180	73	右左	B	走攻守三拍子揃い、柔軟で軽快な守備は関東ナンバーワンと評価される
外野手	輿水 大輝	甲府城西	3	178	76	右左	C	チャンスに強く状況に応じたショアな打撃で打点を量産し試合を決める
外野手	又木 鉄平	日川	3	182	76	左左	C+	投手兼外野手。パワーだけでなく駆け引きが上手く広角に打ち分ける

北海道・東北

関東

北信越

東海

近畿

中国

四国

九州・沖縄

夏の高校野球パーフェクトガイド2016

北海道・東北

関東

北信越

東海

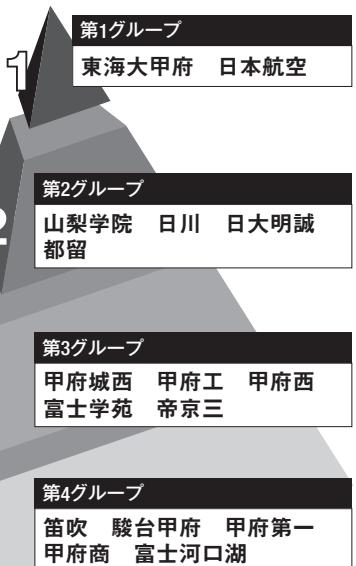
近畿

中国

四国

九州・沖縄

地区勢力ピラミッド



秋季大会

帝京三	1	8	1	優勝!! 東海大甲府
日本航空	8	0	0	
駿台甲府	4	1	4	
甲府商	3	1	3	
東海大甲府	8	9	8	
笛吹	1	2	1	
日川	4	0	5	
甲府城西	8	0	6	

春季大会

東海大甲府	6	6	6	優勝!! 東海大甲府
富士学苑	0	0	4	
山梨学院	9	3	9	
日川	8	1	8	
日本航空	5	6	5	
日大明誠	4	3	4	
甲府工	8	3	8	
都留	9	0	9	

大会展望 絶対王者・東海大甲府の時代

昨夏今春と2季連続で甲子園を経験し、中心選手の存在感と安定感がある東海大甲府が優勝候補筆頭。秋春と決勝で敗れている日本航空が3度目の正直なるかにも注目したい。山梨学院は吉田洸二監督が就任時に入学したメンバーが3年生を迎える集大成。頂点を狙える布陣を組む。ダークホースは公立の雄である日川、近年めきめきと力をつけ、昨夏準優勝の甲府城西、伝統校・甲府工、チーム一丸の都留などが打倒私学を目標に闘志を燃やす。

7季連続優勝なるか?

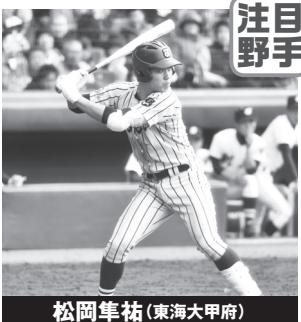
今年の春季大会も含め、山梨県大会6季連続優勝中の東海大甲府。3年間、県内公式戦負けなしの30連勝の記録を目前更新中である。この夏も優勝すれば7季連続優勝+35連勝となり、県高校野球史に刻まれる歴史的な記録となる。この破竹の怪物を相手に、どのような作戦を立て、どのような試合運びで、どのように打ち崩し、どのようにして打者を抑えて、どのように勝利するのか。どこのチームが記録を止めることができるのか、できないのか。注目したい。

能力で盗塁を許さず信頼感がある。秋春と準優勝に終わつた日本航空は、左の大砲・豊田理樹、右の大砲・藤沢広大、勝負強い片野大樹と並ぶ中軸は破壊力十分。走者を貯めてからの長打で一気に試合の主導権をつかむ。山梨学院は俊足の宮下墨、チームを牽引する主将の瀧澤虎太朗、パンチ力のある知見寺代司など、1年生からレギュラーとして活躍している経験豊富な選手が並ぶ。2年生捕手の手島涼が投手の持ち味を引き出す。

都留は繋ぐ意識が徹底しており、桑原永佳、今井大地、佐藤佑成が打点を稼ぐ。日大明誠の古澤友大は俊足の好打者。主将で4番・長身の小磯渚は長打で試合の流れを引き寄せる。日川は、内藤幹太、小幡徳人の出墨率が高く、投手ながらシニアな打撃の又木鉄平、県内屈指の大型選手・高野航など打球線に切れ目がない。向山発輝は守備範囲が広く安打性の打球を再三好捕し投手陣を助ける。

甲府工は長打力が光る一瀬佑樹、野球センス抜群の清水寛太まで打球線をつなぎたい。帝京三は水上由伸、鶴岡墨のバッテリーが投打の要である。甲府城西の輿水卓、輿水大輝のクリーンアップの活躍も楽しみである。

注目野手



松岡隼祐(東海大甲府)